

農村プロデューサー養成講座

～地域に消えない火を灯せ～

～令和8年度～

目次

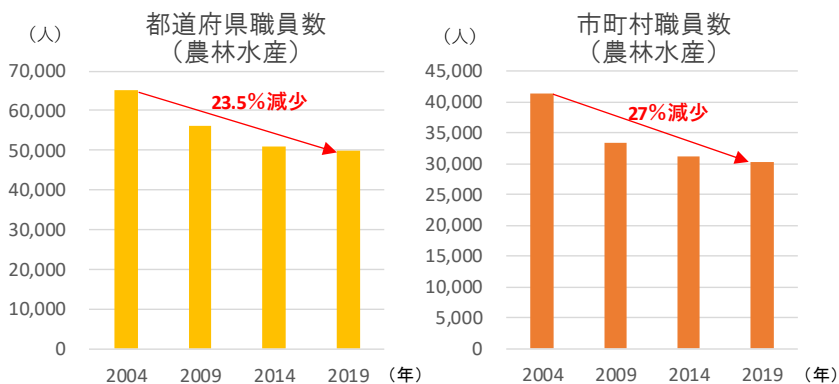
『農村プロデューサー』養成講座とは？	1
『農村プロデューサー』養成講座 カリキュラムの概要	2
新しい研修スタイル及び実施スケジュール	3
『農村プロデューサー』養成講座 講演者・講師の紹介	4
『農村プロデューサー』養成講座 講演者及び講師からのメッセージ	5
入門コース オンライン講座（ライブ配信）	6
実践コース（1）オンライン講演（ライブ配信）	7
実践コース（1）オンライン講演（ライブ配信）実施内容	8
実践コース（2）事例を基にした模擬演習等（対面講義）	9
実践コース（2）事例を基にした模擬演習等（対面講義）実施内容	10
実践コース（3）研修生自らの実践活動（オンラインゼミ＋実践）	11
実践コース（3）研修生自らの実践活動（オンラインゼミ＋実践）実施内容	12

『農村プロデューサー』養成講座とは？

- 『農村プロデューサー』とは、
“地域への愛着と共感を持ち、地域住民の思いを汲み取りながら、地域の将来像やそこで暮らす人々の希望の実現に向けてサポートする人材”のこと。

『農村プロデューサー』養成講座を開講する背景

都道府県・市町村の職員が減少する中で、
地域に寄り添う人材の必要性が増大。



※ 一般行政職員数も15年間で10%以上減少。

(出典) 総務省「地方公共団体定員管理調査結果」から作成。(一部事務管理組合の職員を除いている)

- 地域づくりに決まった答えはありません。
- だからこそ、**地域に寄り添ってサポートする人材**が今、**全国各地で必要**なのです。
- 本講座は、一方通行的な講義による知識の習得よりも、**演習や実践活動による現場力アップを重視**します。
- 本講座の修了生(『農村プロデューサー』)が**ネットワークでつながり**、**支え合っている環境を整える**ことで、**全国各地の人材同士の連携も深めて**いきます。



(イメージ) 地域住民と農村プロデューサー

講座の種類

以下の2種類のコースで構成。

① 入門コース

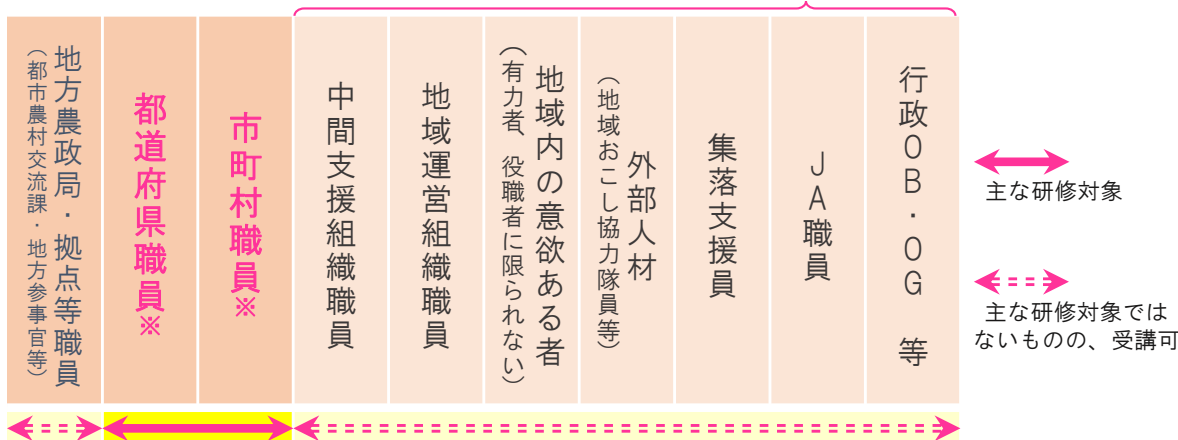
地域づくりに関心のある者が幅広く参加可能なオンライン講演。

② 実践コース

地方自治体職員及び地域づくりに意欲がある者等を対象として、**実例を基にした模擬演習や地元での実践を通じ、地域づくりをプロデュースする者を養成。**

(参考) 実践コースの受講対象者

地域づくりに意欲がある者



※ 地方自治体職員として、農林水産、社会教育、福祉、地域共生社会、企画等の部局の職員、地域担当職員、農林水産普及指導員(都道府県)、農業委員・農地利用最適化推進委員(市町村)等を想定

『農村プロデューサー』養成講座 カリキュラムの概要

- 「入門コース」「実践コース」の2種類のコースで構成。さらに、講座修了者（実践コース）と講師陣をつなぐネットワークを構築。
- オンライン形式（ライブ配信による講義や演習）も併用し、実例を基にした模擬演習や受講生等自らの実践活動による現場力アップを重視。

『農村プロデューサー』養成講座 ～地域に消えない火を灯せ～

1. 研修の目標

- ・ 農山漁村地域における、創意工夫にあふれる地域づくりの取組内容を学ぶことにより、地域づくりの実践に向けたプロセスを習得

2. 受講対象者

- ・ 地域づくりに関心のある者が幅広く参加可能
- ・ 実践コースの受講希望者は、入門コースを受講することが望ましい

入門コース（定員なし）

3. 主な内容

オンライン講演（ライブ配信）

- ・ 地域づくりに造詣の深い有識者による研究分野等に関する講義
- ・ 地域で活躍する実践者による活動プロセス等の紹介
- ・ チャットを用いた質疑応答
- ・ 全6回（各90分程度）

1. 研修の目標

- ・ 地域への愛着と共感を持ち、地域住民の思いを汲み取りながら、地域の将来像やそこで暮らす人々の希望の実現に向けてサポートできる人材（農村プロデューサー）を養成

2. 受講対象者

- ・ 地方自治体職員※及び地域づくりに意欲がある者等

※ 地方自治体職員として、農林水産、社会教育、福祉、地域共生社会、企画等の部局の職員、地域担当職員、農林水産普及指導員（都道府県）、農業委員・農地利用最適化推進委員（市町村）等を想定

3. 主な内容

(1) オンライン講義（ライブ配信）

- ・ 地域及び地域住民に関する現状把握や分析手法、実践に向けたロードマッピング等の基礎を学ぶ
- ・ 地域づくりに造詣の深い講師による講義
- ・ チャットを用いた質疑応答
- ・ 2日間（計6時間程度）

(2) 対面講義（実例を基にした模擬演習等）

- ・ ワークショップ形式の演習により、(1)で習得した手法を現場で実践するためのトレーニングを実施、また受講生同士の連携も推進
- ・ 2泊3日（全国5会場で開催予定）

実践コース（120人程度）

(3) 受講生及び修了者自らの実践活動（オンラインゼミ+実践）

- ・ 受講生及び修了生が取り組む実践活動の中からモデルケースを選出
- ・ 受講生及び修了者は講師からアドバイスを受け、現場レベルで企画・実践
- ・ モデルケースを題材として、農村プロデューサーに求められるポイントをオンラインゼミで議論



研修スタイル及び実施スケジュール

- 実践コースでは、「型にはまった地域づくり」を目指すのではなく、「その地域に合致した地域づくり」を考えるスタイルを目指していく。
- 「オンライン講義」「実例を基にした模擬演習」「研修生自らの実践活動」の3ステップで、個々の研修生の現場力アップをフォロー。

研修スタイル（実践までを段階的にフォロー）

これまでの研修スタイル



研修で学ぶ内容は有意義だが…



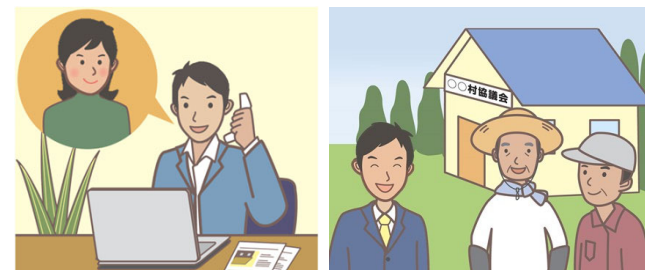
すぐに地域で実践するにはハードルが高い場合も

研修から実践までの段階の段差が高すぎる可能性。

本講座の研修スタイル



実例を基にした模擬演習によりオンライン講義で学んだことを実践に移すためにトレーニング



講師のフォローを受けながら研修生自ら実践活動にチャレンジ
研修修了後の活動を支えるネットワークも構築

現場力を段階的に身に付けるためのきめ細やかな段階を用意！！

実施スケジュール

※ スケジュールは変更の可能性があります。

令和8年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
入門コース (オンライン講演)				全6回									・実践コース(2)は、5会場(仙台、金沢、東京、岡山、福岡)で開催予定。 ※会場は変更となる場合があります。 ・受講生は申込みの際に参加会場を選択
実践コース				受講申込受付期間		2日間	連続3日間の対面講義 ※5会場から1つ選択	オンラインゼミ 実践前	研修生 地元で実践	オンラインゼミ 実践後			
研修修了生等のネットワーク													ネットワーク構築へ

実践コースの様子



対面講義(実例を基にした模擬演習)

【受講生の感想】

- 地域資源を生かし、住民の思いを汲み取りながら、地域の活性化に貢献できる人材となれるよう、取り組んでいきたい。(地域おこし協力隊)
- 自分も地域に消えない火を灯し、自分自身も地域のために心を燃やしていきたい。(市職員)
- 今回の研修で得たご縁を大切に、交流や情報交換を継続していきたい。(市職員)
- 地域を良くしたいという熱意が大切と知る良い機会になった。(県職員)

講演者・講師の紹介

- 令和8年度は、「**入門コース**」（参加自由）を7月から、「**実践コース**」（定員制）を9月から開講。
- 「実践コース」は、ホームページ上にある実践コース受講申込書で応募可能。（実践コースの募集は7月上旬頃からを予定）

入門コース 講演者（オンライン講演）

6つの分野別に、講演者それぞれから地域づくりに関する取組内容を学ぶ。

第1回 【総論分野】

令和8年7月1日（水）19:00～



東京大学助教等を経て、2006年より現職。専門は、農村政策論、地域ガバナンス論。国内外の農山村地域を歩き、集落レベルから国の政策レベルまでの実態を研究し、政策提言を行っている。
著書：『農山村は消滅しない』（岩波新書）、『農村政策の変貌』（農文協）、『にぎやかな過疎をつくる一農村再生の政策構想』（農文協）など多数。

明治大学農学部 教授 小田切 徳美 氏

第2回 【イノベーション分野】

令和8年7月8日（水）19:00～



ビジネスプロデューサー／クリエイティブディレクター。静岡県湖西市出身。東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻卒。国内最大級の地方創生イノベータープラットフォーム「INSPIRE」を立ち上げ、超絶まちづくりの集合知を社会にシェアしている。
著書『最強の縄文型ビジネス』（日本経済新聞出版社）で「TOPPOINT大賞」ベストビジネス書受賞。

BBT大学大学院 経営学研究科 MBA 教授/
一般社団法人INSPIRE 代表理事 谷中 修吾 氏

第3回 【コミュニティ・地域づくり分野】

令和8年7月13日（月）19:00～



名古屋大学教授、東京大学教授を経て、2025年より現職。2013年から20年、東京大学高齢社会総合研究機構副機構長併任。文部科学省中央教育審議会生涯学習分科会委員。農林水産省農村RMO研究会アドバイザー。専門は社会教育学、生涯学習論。人が生活の営みを続け、成長していくことに現れるさまざまな事象を通して、社会のあり方を考え、人が幸せに暮らすために何ができるのかを考えると、特にコミュニティの自律と住民の学習とのかかわりに関心がある。

大正大学地域創生学部 教授 牧野 篤 氏

第4回 【地域資源利活用分野】

令和8年7月23日（木）19:00～



東京工業大学卒業後、三菱総合研究所、筑波大学等を経て現職。建築計画と都市・農村計画をベースとしたフィールド研究を続けているプランナー。農村計画学会会長。
共著書「震災復興から俯瞰する農村計画学の未来（農林統計出版2019）」「クロノデザイン-空間価値から時間価値へ-（彰国社2020）」「人口縮小！どうする日本？（東大出版会2025）」等。

東京科学大学 環境・社会理工学院 建築学系
教授 齋尾 直子 氏

第5回 【地域づくり実践分野①】

令和8年7月28日（火）19:00～



豊島で育ち、留学先のオーストラリアでホスピタリティとホテルマネジメントを学ぶ。現地旅行会社で10年間インバウンド企画に携わり、2018年に家族と帰郷。翌年に合同会社とくとを設立。
現在はてしま農泊推進協議会の会長として、地域資源を活用した高付加価値の滞在型観光を創出し、島の経済循環と持続可能な地域経営を牽引している。

てしま農泊推進協議会 運営責任者 濱中 玲子 氏

第6回 【地域づくり実践分野②】

令和8年8月5日（水）19:00～



九州東海大学農学部卒業後、熊本県の農業技術職員として県庁などで勤務。2021年に早期退職し、南阿蘇村役場へ。1期養成講座受講。
南阿蘇村では、南阿蘇村農業みらい公社事務局長として農地仲介と新規就農者育成を軸に、特産品開発、有機農業の団地化や風景をつくるごはんの取組などを推進してきた。現在は株式会社Roots&Bloomに所属し、地場野菜を活用した特産品の開発を通じて、農村活性化に取り組む。

株式会社Roots&Bloom 取締役 山戸 陸也 氏

実践コース 講師（オンライン講義+対面講義）

経験豊富な講師陣。実例を基にした模擬演習や地元での実践を通じ、現場力をアップする。



2021年3月まで、農業土木技術者として山形県庁に在職。この間、農地や生活環境の整備に併せて、事業を契機とした地域の元気づくりに注力してきた。山形県職員なのに？全国各地からの声に応え、気づけば1,000以上の事例と関わり、

地域自ら動き出してくる「地域づくり」を展開してきた。この5年間、農村プロデューサー養成講座を通して、そのノウハウを広く伝えてきた。

農村着火型プランナー/
山形県農村づくりプロデューサー
高橋 信博 氏



2018年愛媛県退職。在職中は協働自治による行革、地域包括ケア・虐待防止、地域担当職員のほか、（一財）地域活性化センターに派遣されクリエイティブ事業室長として全国の地域人材育成と地域づくり伴走支援に従事。

現在は、課題解決思考から価値創造思考への転換、あいだをつなぐ人材育成、しごとづくり・創業支援に取り組んでいる。流しのコミュニティナースとしても活動。

労働者協同組合やさしいまちづくり総合研究所
常務理事・主席研究員 前神 有里 氏



岩手大学農学部修了後、札幌で民間コンサルタント会社に入社し、公共交通に関する調査や計画策定に携わる。2005年博士（農学）取得。

岩手県花巻市を拠点に、地域運営組織の立ち上げ支援や地域交通（デマンドタクシーやボランティア送迎等）の導入支援に取り組んでいる。

特定非営利活動法人いわて地域づくり
支援センター 常務理事 若菜 千穂 氏



大学卒業後、民間企業の営業職を経てNPOの世界へ。現在は市民が主体的に活動する地域づくりを目指し、コミュニティプランナーとして活動。市民参加のプロデュースを行う（一社）シミズシーズ総合研究所の代表理事をつとめる他、（一財）明石コミュニティ創造協会の常務理事兼事務局長として地域自治組織支援や生涯学習・男女共同参画の推進等にも関わる。

一般財団法人明石コミュニティ創造協会
常務理事兼事務局長 / 一般社団法人シミズ
シーズ総合研究所 代表理事 柏木 登起 氏

講演者及び講師からのメッセージ

【入門コース】

研修科目	講演者	講演者からのメッセージ
第1回 【地域づくり総論】	明治大学農学部 教授 小田切 徳美 氏	「地域づくり」とは何でしょうか。「つくる」とは、所得や雇用はもちろん、地域のコミュニティやそれを支える人材が生み出される環境づくりに対する言葉でもあります。そうなる と、地域づくりとは、「しごと」「くらし」「活力」のそれぞれのパーツと同時に、新しい地域の「しきみをつくる（造る）」ことを意味しています。当然、その課題は重たく、また息の 長い取り組みが必要になります。しかし、そこでたじろぐ必要はありません。なぜならば、既に全国各地でそうした取り組みがあり、その内容とプロセスを「解剖」することにより、だれ でも手がかりやコツを学び、実践に向けて身につけることができるからです。 本講義では、先発するそうした地域づくりの取り組みを紹介しつつ、地域づくりの本質と勘所をわかりやすく論じてみたいと思います。
第2回 【イノベーション分野】	BBT大学大学院 経営学研究所 MBA 教授/ 一般社団法人INSPIRE 代表理事 谷中 修吾 氏	農村イノベーションには、地域の社会的課題を明らかにしてロジカルに解決策を導き出す「問題解決型」だけではなく、突き抜けたアイデアから出発して農村の社会的課題を紐づける 「価値創造型」のアプローチを組み合わせることが重要です。0から1を生み出すイノベーターは、農村でどのように新しい事業を生み出しているのでしょうか。 国内最大級の地方創生イノベータープラットフォーム「INSPIRE（インスパイア）」において、価値創造型で地域活性化に取り組むイノベーターたちの集合知を体系化した「超絶まちづく りのビジネスデザイン技法」を伝授します。
第3回 【コミュニティ・地域づくり分野】	大正大学地域創生学部 教授 牧野 篤 氏	私が専門とする社会教育の立場からは、また実際に各地にお世話になってまちづくりにともにかかわった経験からは、私のような外部の人間が、いかにして、その現場の当事者になるの かということをつねに突きつけられるということです。それはまた、よそ者であっても当事者になれることを示しています。そこで問われるのは、よそ者が現場の人々のいわばプライドを 損ねずに、いかにそのよそ者を通して、現場を認識できるように支援するの、ということです。いわば、ちょこんとお邪魔して、話を聞き続け、彼らがよそ者を通して自分の言葉に気づ き、自分が本当は地元をどうしたいと思っているのかを意識し始めるまで、根気よくつきあうこと、そういうことだと思います。これを私はパッシブ・アクション・リサーチと呼んでいま す。飽くまで受け身であると、それがポジティブへと転化する臨界点がやってきます。そんなことを、学んでいただければと思います。
第4回 【地域資源活用分野】	東京科学大学 環境・社会理工学院 建築学系 教授 斎尾 直子 氏	農山漁村は地域資源の宝庫です。しかし、長年の超少子高齢社会の継続、更に予期せぬ自然災害等により、貴重な資源を守りきれず少しずつ失う危機に直面しています。公共施設計画 専門とする私からのレクチャーでは、自然資源は扱うことはできませんが、人々の居場所・空間づくりを題材にお話する予定です。例えば、地域の公立小中学校（元学校、廃校施設活用 等も含む）を出発点に、老朽化が進む公共施設再整備や機能複合化計画をテーマに、農山漁村共通解や地域独自の特殊解について皆さんと議論してみたいと思います。キーワードは、都市 と農山漁村、コミュニティと公共空間、公立小中学校と地域社会、地区の家と屋根のある広場。画面越しですが皆様とお会いできることを楽しみにしています。
第5回 【地域づくり実践分野①】	てしま農泊推進協議会 運営責任者 濱中 玲子 氏	かつて「ごみの島」と呼ばれた香川県・豊島(てしま)は、現在では「アート島」として国内外から多くの人が訪れる場所となりました。 その変化の中で、地域の暮らしそのものに触れる農泊は、観光と地域をつなぐ新たな接点としての役割を担い始めています。 私たちは、小さな島の小さな協議会ではありますが、無理のない形で関わる人を少しずつ増やしなから、地域と訪れる人との間に自然な循環を生み出してきました。 特別な観光コンテンツではなく、日常の延長にある営みをひらくことで、持続可能であたたかな関係性が育まれていくと感じています。 本地域での取り組みを、小さな現場からの実践例としてご紹介することで、各地域における農泊推進や関係人口創出のヒントとなり、新たな一歩を後押しする一助となれば嬉しく思います。
第6回 【地域づくり実践分野②】	株式会社Roots&Bloom 取締役 山戸 陸也 氏	私は熊本県の農業技術職員として研究機関や県の出先機関などで働いていましたが、年々高齢化や農地の荒廃が進む地元である南阿蘇村の役に立つ実務がしたいと思い、県を早期退職し て南阿蘇村役場に転職しました。村では農業公社の設立から農地中修、新規就農者育成研修、有機農業推進等を行い、これまでに10人の新規就農者を育成しました。 あと5年で限界とも言われる中山間地域では、土地利用型作物で営農する若い担い手の育成と担い手への農地集積が喫緊の課題ですが、中山間地域の農業振興はげんげん理想通りに進むも のではなく日々悪戦苦闘しています。その中の経験と工夫を少しでもお伝えできればと思います。

【実践コース】

研修科目	講師	講師からのメッセージ
(1) オンライン講義 (2) 実例を基にした模擬演習等 (3) 研修生自らの実践活動 仙台 東京 金沢 岡山 福岡	農村着火型プランナー 高橋 信博 氏	農村プロデューサー養成講座も開講6年目を迎えました。この間、全国でたくさんの受講生と出会い、現場が抱える様々な悩みを聞くことができました。皆さん誰もが同じような壁にあ たり、同じような悩みを持っています。そんな時に、相談する窓口や相手がないのは、地域づくりに関わる者の大きな悩みです。毎年受講生も増え、受講生同士のネットワークも全国に 広がってきました。あなたもこの講座の受講を契機に、その仲間になりませんか。 動き出す地域とそうでない地域を比べてみると、地域づくりの準備段階にどれだけ丁寧に取り組んできたのか、ここで成否が決まるのだと思います。この下押えにあたる部分は、誰に 頼ってもどうしようもない部分です。このキモとなる部分も時間をかけてしっかりお伝えします。 本講座では、現場で試行錯誤しながら地域づくりに取り組んでいる皆さんに向けて、地域に消えない火を灯し、地域（住民）自らがその気になり、実際に動き出すまでの地域実践型のノ ウハウを提供します。
(1) オンライン講義 (2) 実例を基にした模擬演習等 (3) 研修生自らの実践活動 仙台 東京 金沢 岡山 福岡	労働者協同組合 やさしいまちづくり総合研究所 常務理事・主席研究員 前神 有里 氏	地域をよくするためにできることを考えると難しいですが、私の好きなことややっていることが地域に役立っているならば、地域づくりはぐっと身近になりますね。目の前の困りごとは、 周りの変化とともに新たな価値を創っていく素材の一つかもしれません。課題解決思考から価値創造思考に転換すると、見える未来は変わってきます。 私たちの暮らしは遠くの誰かとつながっていて、都市も農村もともに在り、ともに未来を創っています。考え方や価値観は人によって違います。だから、いろいろとめんどくさい。ま ずは、わかりあえなさをスタートに、思い込みを解きほぐし、私のあなたの私たちの地域の幸せを考えてみませんか。
(1) オンライン講義 (2) 実例を基にした模擬演習等 (3) 研修生自らの実践活動 仙台 東京 金沢 岡山 福岡	特定非営利活動法人 いわて地域づくり支援センター 常務理事 若菜 千穂 氏	東北の農山村地域を対象に住民主体の地域づくりのサポートに取り組んできました。この数年は、新しい活動に取り組む以上に、既存の自治会や町内会のあり方を見つめなおす必要性も 高まってきているように思います。地域運営組織形成の支援も行っていますが、住民自治のあり方は地域それぞれで、それによって地域運営のあり方も異なります。 今の住民自治のあり様、自分たちの人柄や特性、これからのあり方を考え、そして一歩一歩進んでいくには、何よりもいる人同士での対話がとても大切です。今回の研修で、多くの 人と多くの対話を重ね、私も共に学ぶことを楽しみにしています。
(1) オンライン講義 (2) 実例を基にした模擬演習等 (3) 研修生自らの実践活動 仙台 東京 金沢 岡山 福岡	一般財団法人明石コミュニティ 創造協会 常務理事兼事務局長/ 一般社団法人シモンズシース総合研究所 代表理事 柏木 登起 氏	私は、これまで主に兵庫県内の様々な中山間地域で、地域自治組織の形成や運営に関わってきました。人口減少が進むなか、それぞれの地域が身の丈に合わせて、柔軟にその機能や役割 を変化させつつ、一人ひとりの住民が主体的に様々な活動に取り組んでいくことが必要になってきています。そして、そのような地域づくりには、住民の皆さんと一緒に伴走するプロ デューサーの皆さんの役割がとて大切で、 本講座では、住民が主体となった地域づくりに向け必要不可欠な「対話」の機会を、プロデューサーの皆さん自身が楽しんでもらえるように進めたいと考えています。皆さんと一緒で きることを楽しみにしています！

※ 講演者及び講師は変更する場合があります。
※ 実践コース（5会場）における各会場の担当講師は2名となります。

入門コース オンライン講演(ライブ配信)

(講演のねらい) 農山漁村地域における、創意工夫にあふれる地域づくりの取組内容を学ぶことにより、地域づくりの実践に向けたプロセスを習得する。

(受講定員) 定員は設けない(地域づくりに関心のある者が幅広く参加可能)

(研修実施方法) オンライン

	19:00	19:30	20:00	20:30
2026年 7/1 (水)	60分(19:00～20:00) ＜オンライン講演＞ 第1回【地域づくり総論】 明治大学農学部教授 小田切 徳美 氏		30分(20:00～20:30) チャットによる 質疑応答等	
7/8 (水)	60分(19:00～20:00) ＜オンライン講演＞ 第2回【イノベーション分野】 BBT大学大学院 経営学研究科 MBA 教授／一般社団法人INSPIRE 代表理事 谷中 修吾 氏		30分(20:00～20:30) チャットによる 質疑応答等	
7/13 (月)	60分(19:00～20:00) ＜オンライン講演＞ 第3回【コミュニティ・地域づくり分野】 大正大学地域創生学部教授 牧野 篤 氏		30分(20:00～20:30) チャットによる 質疑応答等	
7/23 (木)	60分(19:00～20:00) ＜オンライン講演＞ 第4回【地域資源活用分野】 東京科学大学 環境・社会理工学院 建築学系 教授 斎尾直子 氏		30分(20:00～20:30) チャットによる 質疑応答等	
7/28 (火)	60分(19:00～20:00) ＜オンライン講演＞ 第5回【地域づくり実践分野①】 てしま農泊推進協議会 運営責任者 濱中 玲子 氏		30分(20:00～20:30) チャットによる 質疑応答等	
8/5 (水)	60分(19:00～20:00) ＜オンライン講演＞ 第6回【地域づくり実践分野②】 株式会社Roots&Bloom 取締役 山戸 陸也 氏		30分(20:00～20:30) チャットによる 質疑応答等	

※ 全6回。

※ 講演者は毎回交代。

※ 講演内容や途中休憩などにより、時間を変更する場合がある。

実践コース(1)オンライン講義(ライブ配信)

- (講 義 等 の ね ら い) 地域及び地域住民に関する現状把握や分析手法、実践に向けたロードマッピング等の基礎を学ぶことを目的とする。
 (受 講 人 数) 定員は設けない(地域づくりに関心のある者が幅広く参加可能)
 (研 修 実 施 場 所) オンライン

2026年		9:00	10:00	11:00	12:00
1日目 9/9 (水)	20分	15分	60分(9:35~10:35)	10分	55分(10:45~11:40)
	農水 挨拶	1 開講式・オリエンテーション 講師の自己紹介、研修内容・目的等の説明	チェックイン (ブレイクアウト)	2 地域の実情について 社会情勢の変化を踏まえた地域の実情	休憩
2日目 9/16 (水)	15分	65分(9:15~10:20)	10分	65分(10:30~11:35)	15分
	チェックイン (ブレイクアウト)	4 農村プロデューサーの役割③・④ 実践(行動)計画づくり 実践活動への移行	休憩	5 地域づくりに関する講座	チェックアウト (ブレイクアウト)

※ 講演内容や途中休憩などにより、時間を変更する場合があります。

実践コース（1）オンライン講義（ライブ配信） 実施内容

番号	研修科目	ねらいと内容	形式	講師等
1	開講式・オリエンテーション	実践コースの実施に当たり、研修内容・目的等の説明及び講師の自己紹介を行う。	オンライン講義 15分	
2	地域の実情について	以下について講義を行う。 ・ 社会情勢の変化やこれに合わせた農村施策の変化により、農村の在り方がこれまでよりも多様かつ複雑となっており、地域が抱える課題も農に関わるものばかりではなく、また地域内のみで解決しないことも多い。 実践コースの導入として、これら地域の実情について考える。	オンライン講義 60分	労働者協同組合やさしいまちづくり総合研究所 常務理事・主席研究員 前神 有里 氏
3	農村プロデューサーの役割①・② 動機づけの手法 地域の現状把握・分析手法	以下の点の基礎的部分に重点を置いた講義を行う。 (動機づけの手法) ・ 地域への入り方（地域の誰に対して、どうアプローチすればよいのか） ・ 地域に対する動機づけ（地域からやりたいという意思「声」を引き出す、自らそう言いたくなる環境づくりのポイント「仕掛け」と大切さ） ・ 誰がしたいか？させたいか？の明確化（1プロジェクトに対し、それは誰がやりたくて始めるのか、させたい誰かがいるのか、何を目的に取り組むのか、やっとうなるのかなどを明確にする重要性） ・ 計画書の重要性（地域づくりに求められる、今後の構想や実現プログラムをまとめた「実践『行動』計画書」の必要性と、話し合いによる計画書づくりと完成するまでのプロセス） (地域の現状把握・分析手法) ・ 地域の現状把握（対象地域や、周辺地域の現状を分析・診断する「括りの設定につながる」手順と手法） ・ 括りの設定（将来的に継続した活動の展開が期待できる範囲、いわゆる括りの検討と、その設定の手順と手法） ・ 計画策定に関わる組織の立上げ（将来の実践活動への移行を見据え、その担い手となり得る可能性のある、計画策定に関わる地元と市町村のプロジェクトチーム・ワーキンググループの必要性や、立上げの手順）	オンライン講義 55分	農村着火型プランナー 高橋 信博 氏
4	農村プロデューサーの役割③・④ 実践（行動）計画づくり実践活動への移行	以下の点の基礎的部分に重点を置いた講義を行う。 (実践（行動）計画づくり) ・ あるべき姿の明確化（括りを構成する地域ごとの5年後・10年後のあるべき姿と、括り全体のあるべき姿を明らかにする視点や作業手順。また、括り全体が向かうべき姿を実現するための計画づくりの手順と手法） ・ 計画づくりに向けたテーマ設定（計画策定チームによる計画づくりに向けたテーマ設定の手順） ・ 実効性の高い「進行プログラム」作成（地域の話合いによって、いつ・誰が・何のために・何を・どうする・そしてどうなるまでを見てわかる形、すなわち「行動計画」に仕立てて、地域全体に示し、合意形成を図るまでの手順と手法） (実践活動への移行) ・ 自らが動き出したくなる環境整備（計画書を実践活動に移行していくための、実践活動組織の立上げの必要性や、立上げまでの手順） ・ 実践の主体や役割分担に関する「実践プログラム」作成（実践活動における地域の活動組織と行政の関わり方、役割分担や関わり度の合い） ・ 実践活動の下支え（実践活動を起動し継続した活動にしていくための、事業の選定や紹介・新たな仕組みづくりといった、行政が担うべき下支え的な部分）	オンライン講義 65分	農村着火型プランナー 高橋 信博 氏
5	地域づくりに関する講座	以下について講義を行う。 ・ 住民主体の地域づくりに向けては対話が必要不可欠である。その対話を行う機会の作り方や進め方等について学ぶ。	オンライン講義 65分 (各講師30分程度)	特定非営利活動法人 いわて地域づくり支援センター 常務理事 若菜 千穂 氏 一般財団法人明石コミュニティ創造協会 常務理事兼事務局長／ 一般社団法人シミンズシーズ総合研究所 代表理事 柏木 登起 氏

※ 講演内容は変更を行う場合があります。

農村プロデューサー養成講座(実践コース)

実践コース(2)実例を基にした模擬演習等(対面講義)

(講義等のねらい) 実例を基にした模擬演習等により、「オンライン講義」で習得した手法を現場で実践するためのトレーニングを実施。研修生同士の連携も推進。

(受講人数) 1会場20~30人程度を想定

(開催会場・日程) 5会場

《福岡》9/28(月) - 30(水) 《金沢》10/14(水) - 16(金) 《仙台》10/21(水) - 23(金) 《東京》11/4(水) - 6(金) 《岡山》11/18(水) - 11/20(金)

(研修実施場所) 開催地域内の会議室

		8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00		
2026年							(12:30~13:00) 10分	20分	170分(13:30~16:20)				10分	90分(16:30~18:00)
1日目							受付	オリエンテーション	<講義及び演習> 1 オンライン講義の振り返りと模擬演習に向けた準備 (適宜、休憩)				休憩	<模擬演習> 2 農村プロデューサーの役割① 動機づけの手法 (地域が自ら取り組みたくなる環境づくり)
2日目	10分	90分(8:55~10:25)	10分	90分(10:35~12:05)	10分	60分	90分(13:05~14:35)	10分	90分(14:45~16:15)	10分	80分(16:25~17:45)	15分		
	チェックイン	<模擬演習> 2 農村プロデューサーの役割① 動機づけの手法 (地域が自ら取り組みたくなる環境づくり)	休憩	<模擬演習> 3 農村プロデューサーの役割② 地域の現状把握・分析手法 (括りの設定と、材料集めの手法)	昼食		<模擬演習> 4 農村プロデューサーの役割③ 実践(行動)計画づくり (住民がどのように計画づくりしていくかの「進行プログラム」作成)	休憩	<模擬演習> 5 農村プロデューサーの役割④ 実践活動への移行 (何年、どのくらいの予算で何を実践して活動するかの「実践プログラム」作成)	休憩	<講義> 6 本日のおさらいと演習に向けての準備等	チェックアウト		
3日目	10分	100分(8:55~10:35)	80分(10:35~11:55)	65分(11:55~13:00)										
	チェックイン	<総括> 7 地域づくりプログラムの構築、発表、実例との比較 (適宜、休憩)	<クロージング> 交流会 実践活動に向けての準備、情報交換など	ネットワーキング説明	フリータイム									
		8:30	9:00	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	18:00		

※ 「(2)実例を基にした模擬演習等(対面講義)」の期間中に、講師が研修生に対し、実践したいこと等をヒアリングし、「(2)実例を基にした模擬演習等(対面講義)」の終了時まで、研修参加者と講師による話し合いで、実践予定の活動内容等を踏まえ、ケーススタディ研修生を決定する。

実践コース（２）実例を基にした模擬演習等（対面講義） 実施内容

番号	研修科目	ねらいと内容	形式	講師等
1	オンライン講義の振り返りと模擬演習に向けた準備	オンライン講義の振り返り等を行う。	講義 170分	1日目
2	農村プロデューサーの役割 ① 動機づけの手法 (地域が自ら取り組みたくなる環境づくり)	以下の点に重点を置いた、実例を基にした模擬演習を行う。 ・ 地域への入り方（地域の誰に対して、どうアプローチすればよいのか） ・ 地域に対する動機づけ（地域からやりたいという意思「声」を引き出す、自らそう言いたくなる環境づくりのポイント「仕掛け」と大切さ） ・ 誰がしたいか？させたいか？の明確化（1プロジェクトに対し、それは誰がやりたくて始めるのか、させたい誰かがいるのか、何を目的に取り組むのか、やっけてどうなるのかなどを明確にする重要性） ・ 計画書の重要性（地域づくりに求められる、今後の構想や実現プログラムをまとめた「実践『行動』計画書」の必要性と、話合いによる計画書づくりと完成するまでのプロセス）	模擬演習 180分	1日目、 2日目
3	農村プロデューサーの役割 ② 地域の現状把握・分析手法 (括りの設定と、材料集めの手法)	以下の点に重点を置いた、実例を基にした模擬演習を行う。 ・ 地域の現状把握（対象地域や材料集め、周辺地域の現状を分析・診断する「括りの設定につながる」手順と手法） ・ 括りの設定（将来的に継続した活動の展開が期待できる範囲、いわゆる括りの検討と、その設定の手順と手法） ・ 計画策定に関わる組織の立上げ（将来の実践活動への移行を見据え、その担い手となり得る可能性のある、計画策定に関わる地元と市町村のプロジェクトチーム・ワーキンググループの必要性や、立上げの手順）	模擬演習 90分	2日目
4	農村プロデューサーの役割 ③ 実践（行動）計画づくり (住民がどのように計画づくりしていくかの「進行プログラム」作成)	以下の点に重点を置いた、実例を基にした模擬演習を行う。 ・ あるべき姿の明確化（括りを構成する地域ごとの5年後・10年後のあるべき姿と、括り全体のあるべき姿を明らかにする視点や作業手順） また、括り全体が向かうべき姿を実現するための計画づくりの手順と手法） ・ 計画づくりに向けたテーマ設定（計画策定チームによる計画づくりに向けたテーマ設定の手順） ・ 実効性の高い「進行プログラム」作成（地域の話合いによって、いつ・誰が・何のために・何を・どうする・そしてどうなるまでを見てわかる形、すなわち「行動計画」に仕立てて、地域全体に示し、合意形成を図るまでの手順と手法）	模擬演習 90分	2日目
5	農村プロデューサーの役割 ④ 実践活動への移行 (何年、どのくらいの予算で何を実践して活動するか「実践プログラム」作成)	以下の点に重点を置いた、実例を基にした模擬演習を行う。 ・ 自らが動き出したくなる環境整備（計画書を実践活動に移行していくための、実践活動組織の立上げの必要性や、立上げまでの手順） ・ 実践の主体や役割分担に関する「実践プログラム」作成（実践活動における地域の活動組織と行政の関わり方、役割分担や関わり合いの度合い） ・ 実践活動の下支え（実践活動を起動し継続した活動にしていくための、事業の選定や紹介・新たな仕組みづくりといった、行政が担うべき下支え的な部分）	模擬演習 90分	2日目
6	本日のおさらいと翌日の演習に向けての準備等	翌日の演習に向けて必要となる準備等。	講義 80分	2日目
7	地域づくりプログラムの構築、発表、実例との比較	地域への支援の在り方に重点を置いた地域づくりプログラムの模擬演習、成果発表、模擬演習と実事例との比較等を行う。	講義・演習 100分	3日目
8	<クロージング> 交流会・実践活動に向けての準備、情報交換など	3日間を通じての受講生の意見交流、情報交換などを行う。	講義 80分	3日目

農村プロデューサー養成講座(実践コース)

実践コース (3)研修生自らの実践活動(オンラインゼミ+実践活動)

(講義等のねらい) 「(2)実例を基にした模擬演習等(対面講義)」で学んだ内容を基に、研修生(グループも可)が講師と相談の上活動のテーマを決定し、何例かを地元で実践する。農村プロデューサーに求められるポイントを、現場レベルで企画・実践し、その成果を題材として、実施前後のオンラインゼミで解説。成功につながるポイント、現場が動き出すポイントなどを探り学ぶ。

対象は、令和8年度受講生または過年度の修了者が取り組む実践活動の中からケーススタディとなる事例を選定。(4例程度)

(受講者) 令和8年度受講生及び過年度修了者

(研修実施方法) オンライン及び現地(企画内容や実践結果は、実施前後にオンラインゼミで報告し、講師及び他の研修生からアドバイス等を受ける)。

	0:00	0:30	1:00	1:30
2026年 1回目 (実践前)	90分(0:00~1:30) <オンラインゼミ> 1 テーマ設定・実践プログラムづくり 事前に講師と相談の上作成したテーマと実践プログラムについて参加者全員でブラッシュアップ			
実践日	 <実践> 2 現場でプログラムを実践・ドキュメントの作成 実際の現場で実践しそのプロセスを整理・記録			
2回目 (実践後)	90分(0:00~1:30) <オンラインゼミ> 3 成果の共有と検証 実践のプロセスと成果を共有、実践者の説明と参加者による質疑応答でスキルアップ			
	0:00	0:30	1:00	1:30

※ <オンラインゼミ>は、講師とケーススタディ研修生の都合の合う日時で開催。

※ <オンラインゼミ>のほか、ケーススタディ研修生は、実践活動について、講師からフォローを受けることができる。

※ 上記終了時、オンラインによる閉講式を開催予定。研修の振り返りを行う「修了レポート」の提出とともに、「修了証」を交付。

実践コース（3）研修生自らの実践活動（オンラインゼミ＋実践） 実施内容

番号	研修科目	ねらいと内容	形式	講師等
1	テーマ設定 実践プログラムづくり	ケーススタディ研修生が、活動計画と具体的実践内容を提示する。講師とゼミに参加する研修生全員で、ケーススタディ研修生の実践プログラムについて議論を重ねてブラッシュアップする。 なお、ケーススタディ研修生以外の研修生も、講師に質問しながら実践プログラムを作成することができる。	オンライン ゼミ 90分	ケースに合わせて 担当講師を決定
2	現場でプログラムを実践 ドキュメントの作成	No.1で決定した実践プログラムに沿って、研修生が実践活動に取り組む（職場の同僚等を交えたグループ実践を想定しているが、単独での実践も可）。実践活動中は、ケーススタディ研修生以外の研修生も含め、講師に個別に相談を行うことができる。 ケーススタディ研修生以外の研修生も、実践活動を行った者は活動状況（プロセス等）をドキュメントにまとめる。	実践	
3	成果の共有と検証	ケーススタディ研修生の報告について、他の研修生と講師を交えて、成功につながるポイントや、現場が動き出すポイントなどを学ぶ。講師は、各研修生に対してアドバイスし、現場におけるプロデュース力を高める。 ケーススタディ研修生以外の研修生も、実践活動を行った者は活動状況を報告する。	オンライン ゼミ 90分	

※ ケーススタディ研修生は、「（2）実例を基にした模擬演習等（対面講義）」終了時まで決定しておく。

※ 1は、効率的な進行の観点から、企画内容や質問等を、講師と研修生に事前共有。

※ 3は、効率的な進行の観点から、結果や質問等を、講師と研修生に事前共有。

※ 上記終了後、後日、オンラインによる閉講式を研修生全員で開催予定。レポート提出者に「修了証」を授与。